

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名 交通の健康学的影響に関する研究 自家用車利用通勤の健康学的影響に関する調査	
2. 有識者意見の概要及び対応 交通の健康学的影響に関する研究会（メンバー及び開催状況は別紙）	
意見の概要	意見に対する対応
<ul style="list-style-type: none"> 今回のような調査は地域特性が反映される可能性が考えられる。また、被験者を増やすとともに、被験者のバックグラウンドを詳細に確認し、絞り込むことが大切である。 代替交通機関は、アンケートでは主観的ストレスがある一方、心理指標や生理指標では必ずしもストレスがかかっていないが、これをどのように説明するか検討が必要である。 代替交通機関への気持ちをどう切り替えるか、あるいは壁を取り除くか、というソリューションを提供するための知見を積み上げていく必要がある。 代替交通機関の場合、自分でコントロールできない、あるいは予測できない状態がストレスになると考えられ、予測や対処が可能になる交通システムがあるとストレス上昇を抑えるのに寄与するのではないか。この点、今回の調査では、被験者自身が日を重ねることによって、予測可能性・対処可能性を獲得したとも推測できる。 交通ストレスの構造分析を心理学的に行う必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人口規模や交通条件により、調査結果も異なる可能性がある。被験者については、予算等の制約もあるが、今後の調査において留意したい。 これまでの研究においても、一定程度の歩行がストレスを低下させる可能性が示唆されており、歩行量の影響が大きいと考えられる。 今後の調査における方向性の一つとして検討したい。 調査結果のまとめの部分で、予測可能性に関する記述を追加。 今後の検討課題としたい。